

✿ カンボジア初の遺跡博物館オープン

カンボジアのシェムリアップ州に位置する世界遺産アンコール・ワット寺院の北東約20kmに、タニ窯跡群は位置しています。ここは、アンコール王朝時代（802～1431年）に、クメール陶器を生産していた窯跡群です。このたび、2009年12月15日にタニ窯跡等出土の陶器を展示したアンコール・タニ窯跡博物館が開館しました。

タニ窯跡群は、1995年にカンボジアで初めて確認・調査された窯跡です。1996年から2001年にかけて奈良国立文化財研究所（当時）と上智大学が発掘調査・研究をおこないました。その後、次々とクメール陶器窯跡が発見・調査され、このタニ窯跡群調査は、クメール陶器研究の先駆けとなりました。

その後、現地の文化財組織APSARA（アンコール・シェムリアップ地域保護管理機構）は、日本国政府による草の根無償援助とカンボジア政府からの資金援助を受け、タニ窯跡に遺跡博物館を建設する事業を開始しました。奈良文化財研究所は、博物館の展示計画から、模型制作、出土陶器の修復と展示、展示映像作成などで全面的に協力し、このたびカンボジア初の遺跡博物館の開館となりました。

開館式典においては、奈文研の功績に対し、カンボジア政府からサハー・メトレイ勲章が当研究所所長へ贈呈されました。

アンコール・タニ窯跡博物館には、昨年度に奈文研で研修を受けた若手研究者が学芸員として常駐し、今後さらなるクメール陶器研究への貢献が期待されます。

奈文研では、アンコール遺跡群内に位置する西トップ寺院の調査・研究を実施しており、遺跡修復活動を視野に入れた新たな事業を計画中です。

（企画調整部 佐藤 由似）



田辺所長による開館テープカット